

## 平成25年度第1回広島市立図書館協議会 会議要旨

日 時	平成25年9月10日（火） 午後1時30分～3時30分		
場 所	中央図書館 3階セミナー室		
公開・非公開の別	公 開	傍聴人	なし
出席者	委 員：和田委員、岡田委員、池田委員、葛原委員、吉本委員、竹澤委員、林委員、松本委員 事務局：林生涯学習課長、清水中央図書館長、藤井中央図書館副館長、片山中央図書館事業課長、野口こども図書館長、國田中区図書館長、小川東区図書館長、吉竹南区図書館長、角田西区図書館長、小林安佐南区図書館長、富中安佐北区図書館長、神田安芸区図書館長、河野佐伯区図書館長、上田湯来河野閲覧室長、幸田まんが図書館長、川上あさ閲覧室長、市川指導第一課長、松浦指導第一課課長補佐		

### 議 事（会議要旨）

	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 議事</b></p> <p>(1) 子どもの読書活動推進計画の推進状況について</p> <p style="padding-left: 40px;">（生涯学習課長から概要を説明）</p>
林委員長	○ただいまの説明について、御意見、御質問等あればお願いしたい。
岡田委員	<p>○ボランティアの確保は少ないが、ボランティア向け講座の参加者は多い。技術や知識のレベルがアップした人が増え、責任感を持って活動する人が増えていると思う。ボランティアを増やすことも大事だが、数字に見えない部分では充実していると感じる。</p> <p>○「1か月に1冊以上読書する子どもの割合を増やす」の推進状況について、数字から落ちている子は学校でしか読む機会がない。現場の先生は、本を読まない子どもを指導したいが、司書教諭が担任を持ち多忙の中、図書館からの情報を活用することが困難な状況にある体制では、発達に応じた文章を読めるよう指導することは限界がある。学校図書館司書が必要である。</p> <p>○全学校に学校図書館を配置している島根県では、担任が、全教科での調べ学習に関して、学校図書館を利用した学習計画を立て、専任の司書教諭は、担任がその計画を活用する際のスキルをフォローする。学校図書館司書は市立の図書館を含め資料収集の助言をしている。また、「自ら学ぶ」ことを実践しており、子どもが授業で分からなかったことを学校図書館で調べる、ということが日常的に行われている。</p> <p>○鳥取県も岡山県でも司書を配置している。近隣の県に比べ、広島は立ち遅れている。広島市において、目標数値に近づけるためには、現在、8区に置かれている司書の方を</p>

指導第一課長	<p>中心に体制を築き、成功例を学んでいく必要があると感じている。</p> <p>○本市では、事務職員 8 人を拠点校（中学校）に配置して取組を進めており、図書館ボランティアもその運営に関わっている。現在、この 8 名を中心に学校図書館運営に関するマニュアルづくりに取り組んでおり、ボランティア活動に生かしてもらうことを考えている。先ほどの御意見を踏まえ、マニュアルに反映できるか、検討したい。</p>
池田委員	<p>○推進状況を見ると少しずつ成果が上がっている。こども未来局が実施したアンケート調査で、「子どもが楽しそうだった。」という割合が 64%あり、ある程度評価できる。</p> <p>○また、こども未来局の読み聞かせに関するパネル作成や、公民館図書室への赤ちゃん絵本のコーナーの設置は素晴らしい。小さい時から絵本を読んでもらうことは、心が和み、言葉の習得にも繋がる。公民館や区図書館でアンケートをとり、全市の状況を把握し、取組を推し測ることも一つの手である。</p>
林委員長	<p>○推進状況の取りまとめに当たっては、取組に加えて、その結果見えてきたことも分かるように取りまとめるとよい。子どもの読書活動は、「学校」が舞台になることが多いので、図書館が学校をどう支援したのか、学校を巻き込んで何ができたのかを明らかにすれば推進状況がよく見えてくる。量的だけでなく質的なものも見えればよいと思う。</p> <p><b>(2) 平成 24 年度業務実施状況及び平成 25 年度事業について</b></p> <p>(中央図書館副館長から概要を説明。)</p>
林委員長	<p>○ただいまの説明について、御意見、御質問等あればお願いしたい。</p>
池田委員	<p>○図書館招待は、こども図書館が 8 区全施設の受け入れが難しいことなどから数字的に伸び悩んでいると感じる。こども文化科学館とのコラボレーションでこども図書館にも訪れるような取組ができないか。</p> <p>○年長児は 11 月に就学前健診で、1～2 月には幼保小連携事業の一環として学校訪問の機会があるが、この際に学校図書室に立ち寄れば、自分たちが通う小学校にはたくさん本があるということを知る機会に繋がっていくのではないかと思う。</p> <p>○食育は毎月 19 日に取組を行っている。自ら学ぶことが大事で、食育の取組も、最初は大人が牽引していたが、今では、子どもたちが自ら考え取り組むようになってきている。読書についても、例えば、隔月 23 日を読書の日と位置付け、学校・保育園で、家庭や地域で読書活動に取り組めば次第に定着し、子ども自らが読書に取り組むことができるようになると思う。実際には学校現場での取組であり、あくまで提案である。</p> <p>○参考資料 3 の利用者登録率が 5 人に 1 人なのに対して、一人当たりの年間貸出冊数が 4.6 冊という数字についての考えを伺いたい。</p>

こども図書館 長	○図書館招待は、御意見を参考に、こども文化科学館と連携してPRに努めてまいりたい。
中央図書館副 館長	○参考資料3の登録率は、本市に限らず人口規模の大きい他の政令市においても同様の傾向が見られる。図書館では登録者を増やすため、昨年度から新規採用の行政職員や教員の研修に出向き利用登録を勧めている。 ○4.6冊は、年間の貸出冊数を全市民の人数で除したものである。本市の1回当たりの貸出制限冊数は5冊までだが、他都市では10冊、中には無制限もあり、このような都市では、人口一人当たりの平均貸出冊数が多くなる傾向がある。
林委員長	○登録者は平均すると年間20冊程度借りているということによいか。
中央図書館副 館長	○そのとおりである。
竹澤委員	○大塚公民館が開館し図書室が整備されたが、貸出利用が多く本棚が空いている状態が続いている。図書の補充についてお願いしたい。 ○私は、本年4月から大学の社会連携センター長を務めている。市立大学の図書館でも市立図書館の図書の予約受け取りが可能であることを今後、学生に周知を図っていきたい。また、夏期は図書館の学生利用が少ないので、一般向けに自習利用として開放することを学内会議で提案してみようと考えている。 ○社会連携センターでは、今年、学生の自主プロジェクトとして、基町地区の各国の言語の本を設置している場所で本の読み聞かせを行うことを計画している。学生のボランティア活動は、社会との関わりの中で学ぶことが多いという教育効果が見込まれるため、まず基町地区でチャレンジし、ノウハウを集め、大学生が読み聞かせ等にどう関わっていけるかについて引き続き検討していきたい。
松本委員	○子どもの読書活動に関していろんな方が地域で取り組まれ、図書館も随分努力をされ、段々と中身ができてきたなという印象を受けている。 ○違った観点で言えば、大人の知的好奇心を満たす役割を図書館が果たす必要がある。中央図書館の広島文学資料室には文学資料など充実した資料があるが、利活用させるため、企画展に作者を知る人を招いて講演会をしてはどうか。福山市の文学館であった井伏鱒二企画展は非常に良かった。『黒い雨』の井伏鱒二は、広島市出身の作家ではないが、福山市とタイアップして展示や講演会ができないか。講演会の良さは参加者で勉強し合うところがあり、複数回の講座で読み解いていく方法をとれば、より読書に繋がっていくと思う。
林委員長	○他館とネットワークを結んで企画を交換するのはいい取組だと思う。中央図書館で開催した展示をどこかの館へ出向いて展示するといったことがあるか。

事業課長	<p>○広島文学資料室では21名の広島にゆかりのある文学者の資料を収集している。数年前に、広島大学図書館の展示室に『赤い鳥』の資料を展示した。今秋広島で開催する日本児童文学学会でも同様に資料展示を行い全国の人に見ていただく。福山文学館と連携した企画はこれまでないが、今後はこうしたことも含めて行事を組んでいきたい。</p>
葛原委員	<p>○図書館の登録利用者を増やすことに関して、これまで通りのやり方では限界がきている。新規登録者よりも抹消者の方が超え、少子高齢化もあり、難しい課題である。</p> <p>○「1か月に1冊以上本を読む子どもの割合を増やす」という目標についても、教育現場に限って子どもたちの読書活動の環境を整えていくことだけでは限界を感じている。</p> <p>○イオンと連携してブックポストを置いたことはよい取組である。普段、図書館などに馴染みがない人にも、図書の貸出について周知することができる絶好の機会である。民間と連携を図り地道な活動をしていくことが、登録利用者の増加に繋がっていく。</p> <p>○私はともはと号をずっと応援しているが、施設ありきではなく利用者第一主義で、これまで我々が考える範疇を超えてサービスを広げていくことが大事である。通常の図書館業務に加えて、広報紙に掲載するとか、多くの人気が気軽に来れる所で図書館サービスを展開していくという取組は大変だろうと思うが、地道に続けていただきたい。</p>
吉本委員	<p>○イオンの返却ポストに、市立図書館の本以外のもの、例えばゴミが投入されていることはないのか。図書館や映像文化ライブラリーなど人が多く集まる場所へ行くと、異臭がすることがある。日に一、二度、窓を開け風を通すなどしてほしい。</p>
事業課長	<p>○イオンの返却ポストは今年4月に設置し、少しずつ利用が伸びてきている。1日平均の回収数は、4月は30～40冊程度であったが、夏場には70冊を超え、最も多い日は8月20日に201冊であった。ゴミの投入は、設置当初に一度だけお菓子の袋が入っていただけである。そのほか公民館図書室の図書も一度だけ入っていたことはある。</p>
中央図書館副館長	<p>○図書館の環境については、市民の皆様が不快な思いをされないように努めている。来館時にお気付きのことがあれば、館長、職員に申し出ていただきたい。</p> <p style="text-align: center;">(3) 「その他」について</p>
林委員長	<p>○その他として、議論したいことがあれば発言をお願いしたい。</p>
中央図書館長	<p>○市立図書館では、図書館協議会の意見を踏まえ平成23年度に市民局生涯学習課が取りまとめた「広島市立図書館サービスのあり方について」を図書館運営の柱としている。この中で掲げている取組方針をもとに事業を実施しているが、課題もいくつかある。そ</p>

	<p>ここで、今年度は、中央図書館の重要な課題に対する図書館の対応を説明し、委員から御助言や御意見をいただき、今後さらに取組を進めていきたいと考えている。</p> <p>○具体的な課題として本日はまず、「資料保存」、「障害者、高齢者、外国人等あらゆる人々へのサービス」について説明し、次回以降に「コンピュータシステムの更新」と「学校との連携」の2つを考えている。</p> <p>○まず、「資料保存」について、中央図書館が保存の役割を担っており、現在、中央図書館で約100万冊を収蔵している。書庫は、収蔵が超過状態で収容能力約40万冊に対して約60万冊あり、やむなく箱に入れて下置きしたりしている。利用者からのリクエスト等の対応に時間がかかり、本も傷みやよくなることから、図書館では、類書が多い図書を中心に除籍を進め、除籍図書を市民に譲り渡したり、書架の棚数を増やしたりしてきた。また、学校の余裕教室を書庫として使用することを検討している。</p> <p>○2番目の「障害者、高齢者、外国人等あらゆる人々へのサービス」の充実については、超高齢化や国際化の一層の進展や公共図書館の役割から避けられない課題であるため、図書館では、外国語図書や大活字本の充実を図っている。また、昭和49年開館当時は、斬新なレイアウトであったが、現在は利用し難いという構造上の制約がある。このため、図書館では利用者の利便性が向上するように、2階展示ホールのスロープ、自由閲覧室への車椅子昇降機、南側入り口のスロープを設置した。さらに、各階のトイレを洋式に改修している。案内表示も、基町高校創造表現コースの生徒から館内表示やレイアウトについての見直し案を示してもらい、今後はその提案を具体化するよう考えている。</p>
吉本委員	○本の返却についてイオンの協力が得られたこともあり、「メガネの田中」から不用となった老眼鏡などを譲り受けて、図書館の受付や閲覧室に備えてはどうだろうか。
中央図書館副館長	○老眼鏡については、すでに図書館に配置し、利用者の求めに応じて貸出をしている。
吉本委員	○あらゆる人へのサービスをうたうのであれば、閲覧室など様々な場所に置いておき、自由に使うことがサービスといえるのではないかと思った。
林委員長	○利用者サイドに立っての御意見がほかにあればお願いします。
岡田委員	○中央図書館の本は古い印象があった。書庫が足りない、きちんと収蔵できていない状況に危機感を覚える。絶版図書等貴重資料の保存は図書館の大切な仕事だと感じた。
林委員長	○ハード面での対応となる建物の建て替えは全市的な課題であり、すぐには対応できない中で、建て替えまでにソフト面で何か取り組めることがあれば発言をお願いしたい。
松本委員	○質問として、中学校との連携で、余裕教室を書庫として使用するという検討をされているが、そこに保管した本が必要となったときはどうするのか。

	<p>○感想として、以前、中央図書館の書庫を見て本の重さに建物が耐えられるのかと思ったことがあり、大変な事態であると思う。一昨年の雨漏り後の状況はどうか。</p>
中央図書館副館長	<p>○学校教室での資料保管は、利用者の要望があれば取りに行くことができる場所が望ましい。利用の多い少ないなど、資料の選定は、受け入れ側が決まってその収容スペース等を踏まえ判断していきたい。雨漏りの原因はきちんと対処しており、現在は問題ない。</p>
中央図書館長	<p>○学校の余裕教室の活用については、図書館側が学校に書庫を設けることについてのメリットを作り出して、学校側に理解してもらえるかが大切になってくる。</p>
和田委員	<p>○学校の余裕教室にただ図書を置いておくだけでは、学校側にとって何のメリットもない。図書館の書庫の状況は学校においても同様のところがある。</p> <p>○今は親も含めて読書習慣が弱まってきている。市は読書キャンペーン等に取り組み、学校では朝の読書に取り組み、教員も読書をしているが、これ以上の発展性を考えると、多様な資料がある図書館を利用させていただくことも大事である。</p> <p>○五日市南中学校では、広島工業大学と連携して図書館自体を作り変えた。地域では、住民や保護者と一体となり図書館再生に成功したところもあり、これらをモデルにしながら取り組みたいと考えている。</p> <p>○中学校も小学校も、図書館とどういうコラボ、マッチングの可能性はあるか、ソフト面で教員が啓発を受け、具体的な動きとして連動してくれればいいと思う。それにより市の目標の月1冊87%（中学校2年生）に対しても数値が上がってくると期待している。</p> <p>○図書館サービスを各学校現場で十分に生かされていないのが残念である。学校での動きも含めて、学校との連携を含めて評価していただけると有り難い。</p>
林委員長	<p>○定刻となったので、次回協議会の開催について、事務局から願います。</p>
事務局	<p>○次回の協議会については、来年の3月までに1回開催したいと考えている。詳細なスケジュール等については、後日連絡させていただく。</p>